

書写からひろがる, まなび, 暮らし

line

線

Special Interview

一期一会を楽しむ 小学書写の授業を。

神戸女子短期大学幼児教育学科教授

山内有香子



本資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。

日文の実践事例、教科情報
詳しくはWebへ!

CONTENTS

Special Interview

- 一期一会を楽しむ小学書写の授業を。 03
神戸女子短期大学幼児教育学科教授 山内有香子

書写のココが知りたい!

- Q.「書く速さ」についてどのように指導しますか? 06
宮本榮信

これからの国語を考える

- 「語彙指導」と書写指導 連載 第二回 08
甲南女子大学人間科学部総合子ども学科教授 尾崎靖二

特集

- 水書用筆・水書用紙って何? 10

書写力向上宣言

- 「書写指導のミカタ」 11
セミナーレポート

指導のミカタ ①

- 平仮名の形に気をつけて書こう 12
神奈川県横浜市立峯小学校教諭 北村しのぶ

指導のミカタ ②

- 硬筆入門期の書写指導 ~二年生の指導について~ 14
滋賀県蒲生郡日野町立桜谷小学校講師 長井礼子

やすみりえの五・七・五紀行

- 第二回 東京都台東区に行く 16
やすみりえ

目指せ! 文房四宝博士 ②

- 土佐和紙 高知県の町 18
世界一薄い手すき和紙を生む卓越した技術力の源とは

連載 第十一回

- コンドウアキの書写的生活 20
コンドウアキ

COVER design ART WORK

日本の伝統文様



【青海波】せいがいはい

広い海がもたらす恩恵を感じさせる柄。未来永劫へと続く幸せへの願いが、無限に広がる波の文様に込められていて、大変縁起のよいものとされています。



神戸女子短期大学幼児教育学科教授

山内有香子

Yukako Yamauchi

一期一会を楽しむ 小学書写の授業を。

教育現場では、書写の授業が苦手という先生方の声を聞くことがあります。そこで、小学校の書写指導において、第一線で活躍されてきた山内先生に、長年現場で培ってこられた経験によるこだわりや現場での取り組みなど、貴重なお話を伺ってきました。

神戸市授業マイスターの就任により
授業の動画をインターネットで配信

平成二十六年度より神戸市教育委員会が、優れた教育指導力を有する教員を、神戸市授業マイスターとして認定するシステムを導入。認定された教員の授業は、学校イントラネットを通して神戸市の教員に幅広く配信し、授業力向上の一つの手立てにしています。山内先生は神戸市立高津橋小学校に勤務されていた平成二十八年度に、書写の指導実績が認められて、神戸市授業マイスターに就任しました。「ここ数年、若い先生が急激に増え、日々の教育活動のなかでベテランの先生に学ぶことが難しくなっています。そこで、神戸市授業マイスターの授業を動画で配信しているのです。どの先生も、学校のデスク上で好きなときに、参考にしたい授業の動画を見ることが出来ます。本来ならば、先輩の授業を見たり、自分で授業を公開したりしていくのが理想的ですが、毎日なかなか時間が取れないのが現状。このシステムを利用すれば、いつでもベテランの先生の授業を参考にすることが出来るのです。」

また、書写の授業が苦手だという声を、現場でよく聞きます。自分の文字に自信がなくて、苦手意識をもつ先生は案外多いのです。

「若い先生に限らず、ベテランの先生でも、書写の授業が苦手だという方はたくさんいますが、先生の文字の良し悪しだけで授業が左右されるわけではありません。一時間の間に、先生が一度も筆を持たなくても、



よい授業はできるということをまず伝えたい。体育の授業と同じ。先生が必ずしも跳び箱を跳ばないと教えられないわけではない。子どもが跳べるように指導できればいいですね。書写指導も、子どもたちが学べる手立てがあればいいと考えています。」

やった！できた！という達成感を 子どもたちに味わわせる授業を

では、子どもたちが魅力的に感じる授業とは何なのか。山内先生に、理想の授業について尋ねてみると、達成感のある楽しさを子どもたちが感じられるかが重要なポイントだといえます。

「できたこと喜び、自分の能力が高まった実感……。子どもたちが変化を感じられる授業を心がけてきました。書写の授業は実技教科ですから、子どもたちに達成感を味わわせやすい。文字を書くことは、見てわかりやすく、うまくなったことを確認できるのが魅力です。だからこそ、この一時間でちょっと気をつければうまく書けると感じ、次の時間も、違う文字も、と意欲をもたせやすい授業ができるのです。」

しかし、書写の授業が好きになれない子どもがいることも。きれいに書けなくて、自信をなくしてしまい、苦手意識をもってしまったとしたら…。

「まず、何と比べて自信をなくしているのかを考えてみます。教科書のお手本と？ クラスの友達と？ 書道教室に通っている友達の文字と比べたら、自信をなくすのはあたりまえではないでしょうか。私が授業でこだわっているのは、“他人と比べない”というところ。一時間前の自分と比べて、成長があればいいのです。『“はらい”の筆使い』『へんとつくりの組み立て方』などと、ねらいをもって学習し、最初に書いた文字と一時間後に書いた文字を比べたら、確実に上達している部分があるはずですよ。」

教室で掲示する場合も、最初に書いた文字と、うまくなった文字の二種類の掲示をおすすめされています。教室にスペースがない場合は、そのときに頑張った数名を抜粋して掲示することもあったとか。

「書写の学習は作品づくりが目標ではないですから、掲示は作品展ではないことを意識したいですね。学習の足跡がわかる方法を取り入れてほしいと思います。」

指導の中で大切にできたのは 子どもたちの笑顔を守ること

長年のキャリアの中で、山内先生が子どもたちと接するうえで大切にできたことを、あらためて伺ってみました。

「二十三年前に阪神・淡路大震災を経験した

ことで、考え方に大きな影響を受けました。あの地震が、もし学校にいるときに起こっていたら、私は目の前にいる子どもたちを守れたのだろうかと思いました。今の私なら、震災も経験して、防災教育も学んだので、あのときよりは、子どもたちを守れるかもしれない。」



震災の経験を通して、教員としての確固たる考え方に行きついたのです。

「学校にいる子どもたちの、心と体を守ることを第一に考えています。元気な姿そのままで、家に帰ってもらうのが最も大切なこと。明日も学校に來たいなと思って、笑顔で帰ってほしい。それが一番の願いです。」

子どもたちの学校生活には、さまざまな場面があります。笑顔を守るために、教員にとって大切にしなければならないのは、やっぱり授業のおもしろさだと思います。

「友達同士で遊んで楽しむことも、もちろん大切。でも、学校生活で一番長いのは、授業の時間。授業がおもしろくないと、学校がつまらないものになってしまいます。わかった、できた、もっとやりたい、と思える授業をすることが、子どもたちの笑顔につながると思います。」





デジタル教科書や水書用紙をはじめ
新しい取り組みを積極的に

年々、デジタル教科書は進化を遂げて、種類も多様化しています。うまく授業内容に組み込めば、多くの学習効果が出ます。その取り入れ方を、今後は研究する必要があります。「デジタル教科書は画期的ですね。書写の授業で筆使いを教える際には、先生が子どもたちの目の前で書いて見せるのが一番ですが、三十〜四十名の児童がいる教室では、穂先までは見せにくい。全員にマンツーマンで見せるのも難しい。でも、デジタル教科書の動画を使えば、大きな画面で繰り返し確認することも容易にできます。書くこ

とに自信のある先生、自信のない先生、どちらとも、学びを支えるツールとしてうまく使っていくべきです。」

学習指導要領が改訂されて、水書用筆や水書用紙も今後の教材として注目されています。「たとえば、低学年での“はね”“はらい”の指導に、これまで粘土や絵筆を使っていた。これを、水書用筆で学習するとよいのではと考えています。手や机を汚さずに学習できるのも、嬉しいことですよね。今後の実践に期待したいと思います。」

幼小連携にこだわった教育を
大学教授の立場から考える

平成三十年度より、小学校教諭から大学教授へ転身を遂げた山内先生。これまでの経験をいかすべく、幼児教育学科にて未来の先生を育成する立場に変わりました。幼稚園や保育園の保育内容を指導しながら、ゼミでは絵本をテーマに、学生たちと一緒に研究を進めています。

「幼小連携の大切さは、今の私には欠かせないテーマ。幼稚園や保育園の後に、子どもたちが進学する小学校のことも、学生たちがイメージできるような指導を心がけています。最近の幼稚園では、小さなところから積極的に文字を教えて書かせているところが増えています。小さくて力の弱い子どもに手に合う筆記具は何か、持ち方の指導はどうあるべきか、現場の状況が気になります。常にアンテナを張って、自分に何ができるのかを考えていきたいです。」



やまうち ゆかこ
山内有香子

小学校教諭を経て、平成三十年四月より神戸女子短期大学幼児教育学科教授に就任。神戸市立小学校教育研究会書写部幹事、兵庫県書写コンクール事務局を歴任。平成二十六年、神戸市教育実践功労賞を受賞。平成二十八年、神戸市授業マイスター就任。



山内先生が研究と教育の両輪に取り組みしている現状で感じることは、いくら研究を進めても、現場の実践なくしては教育の世界は成り立たないということ。小学校で活躍される先生方へ笑顔でエールを送られました。

「授業というのは一期一会で、二度と同じ授業はできません。そのときどきに作り上げるのが授業。とても大変なことですが、現場は、すばらしく輝かしい。先生方には自分の仕事に誇りをもって、子どもたちに学ぶことの素晴らしさを教えてほしいですね。」

「書く速さ」 について どのように 指導しますか?



1 書く速さはさまざま

文字を書くとき、いつもゆっくりと鉛筆を動かして書く児童、さつさと書きあげる児童などさまざまです。そして、それぞれの書き方(速度)が身につけてしまっています。したがって、授業のなかで視写をすると、全員が書き終えるまで、ずいぶん時間を要する場合があります。

日常の書字活動のなかでは、書く目的や場面など、状況に応じて書く速さが異なります。

たとえば、自分の持ち物に名前を書いたり、目上の人に手紙を書いたりする場合は、ゆっくりと、丁寧に書きまします。一方、人の話を聞きながらメモをしたり、板書を書き取ったりする場合は、ある程度の速さで書きます。

状況に応じて、**適切な速さ**で書く習慣を身につける必要があります。

2 適切な速さとは

文字を書く場合に、どの程度の速さが適切なのでしょうか。

平成十八年から平成十九年にかけて、金沢大学が石川県内の小学校の児童を対象に調査した資料があります。これは、一分間にどれだけの文字を視写することができるかを調べたものです。

◎視写における1分間平均書字数データ

学年	男女	人数	平均書字数	最小書字数	最大書字数
1	男	493	12.32	2.0	28.6
	女	444	13.93	2.4	31.2
	全体	937	13.08	2.0	31.2
2	男	507	15.31	3.2	32.5
	女	504	16.51	3.6	35.4
	全体	1011	15.91	3.2	35.4
3	男	420	20.01	3.8	44.0
	女	442	21.60	2.4	43.6
	全体	862	20.83	2.4	44.0
4	男	517	24.24	5.6	59.0
	女	471	26.20	6.8	44.0
	全体	988	25.17	5.6	59.0
5	男	462	28.53	6.2	52.6
	女	380	30.20	5.8	48.6
	全体	842	29.28	5.8	52.6
6	男	430	30.14	7.6	59.8
	女	411	32.43	2.4	63.4
	全体	841	31.26	2.4	63.4

「子どもの書字と発達」 福村出版 金沢大学河野俊寛著より

この資料から推測すると、一分間に書く標準的な文字数は、

- ・低学年で 十二字〜十五字程度
 - ・中学年で 二十字〜二十五字程度
 - ・高学年で 三十字〜三十二字程度
- ということになります。

これは、従来から伝えられてきた結果とほぼ同じです。ただ、書く文字の大きさや、漢字と仮名の文字数、漢字でも画数の多い文字と少ない文字などによって多少の差が出てくると思います。しかし、**適切な速さ**で書く一つの目安になると思います。

3 適切な速さで書く トレーニングを 聴写を活用して

小学校における書写指導は、「正しく整えて書く」ことが目標です。したがって、単に「時間的な速さ」だけを求めるものはいけません。状況に応じて**適切な速さ**で書けるように考えて工夫することが大切です。

たとえば、点画のつながりを考えてリズムよく鉛筆を運んだり、文章を視写するときは一つの文字だけを見ないで、言葉や文を一区切りととらえて書いたりするのも工夫の一つです。いずれにしても、練習の積み重ねが必要です。

『聴写』を活用して試してみましょう

聴写とは聞き慣れない用語だと思いますが、「一定のスピードで話され、あるいは読まれたことを聴き取って、文字で書き分ける活動」のことです。かつて、学習指導要領(昭和五十三年改訂)の国語科「表現」の指導事項として示されたことがあります。

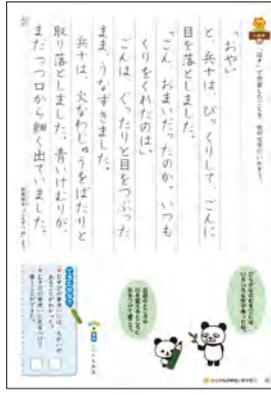
聴写の特徴は、文字の想起力、速写力、集中力などを養い、言葉の力を高めるところにあります。ここでは、文字を**適切な速さ**で書くトレーニングの場として活用します。

聴写の実際

① 聴写する原文(「ごんぎつね」四年)

ごんは、ぐったりと目をつぶったまま、うなずきました。
兵十は、火なわじゅうをばたりと取り落としました。青いけむりが、まだつつ口から細く出ていました。

(総字数六十六字、内漢字十字)



② 聴写の方法

- 話し手(先生)の速さに合わせて書く。
- 知っている漢字は使う。
- 聞きもらしたところは——を引く。
- 消しゴムは使わないで／でしるす。
- 書き終わると、原文と比較して点検する。

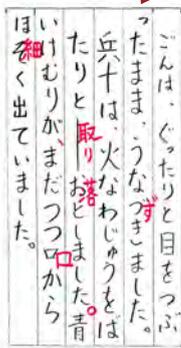
③ 聴写する(原文を三回書く)

- ◆ 話し手(先生)
- 児童

一回目

- ◆ 言葉ごとに区切って、ゆっくり話す。
- ◆ 児童が書き取ると次へ移る。
- 書き終わると、原文と比べて、誤字・脱字・表記の誤りなどを、赤ペンで修正する。

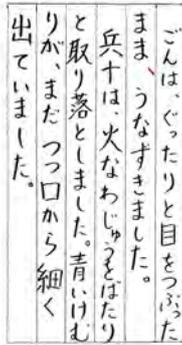
(1行目、1字あけて)
ごんは／(テン)／ぐったりと／めを／つぶったまま／(テン)／うなずきました／(マル)
(行をかえて、1字あけて)
ひょうじゅうは／(テン)／ひなわじゅうを／ばたりと／とりおとしました／(マル)あ
おい／けむりが／(テン)／まだ／つつぐち
から／ほそく／でていました／(マル)



二回目

- ◆ 一回目より区切る言葉を長くする。
- ◆ 原文を四分ぐらいの速さで話す。
- 書き終わると、となりと交換し、原文と比べて点検・修正する。

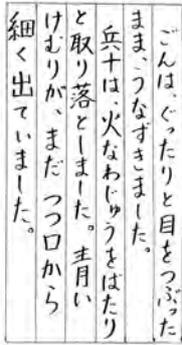
(1行目、1字あけて)
ごんは／(テン)／ぐったりと／めをつぶったまま(テン)／うなずきました(マル)
(行をかえて、1字あけて)
ひょうじゅうは(テン)／ひなわじゅうを／ばたりと／とりおとしました(マル)／あ
おいけむりが(テン)／まだ／つつぐちから／ほそく／でていました(マル)



三回目

- ◆ 区切る言葉を、さらに長くする。
- ◆ 原文を三分ぐらいの速さで話す。
- 聴写文を原文と比べて正しく書き取っているか自己点検する。

(1行目、1字あけて)
ごんは(テン)／ぐったりとめをつぶったまま(テン)うなずきました(マル)
(行をかえて、1字あけて)
ひょうじゅうは(テン)／ひなわじゅうをばたりと／とりおとしました(マル)／あ
おいけむりが(テン)／まだ／つつぐちからほそく／でていました(マル)



4 聴写を活用するポイント

- ① 初めは、ゆっくり話し、回を追うごとに少しずつ速くし、また、区切る言葉も量を増やしていきます。このことにより、自然に適切な速さを体得していきます。
- ② 低学年でも聴写は可能です。簡単な詩や、短い文を使います。
- ③ 高学年になると、回数ごとに、文字の大小、行の中心、字間などの配列の指導事項を重ねることもできます。

聴写を活用することは、ただ書く速さだけのものではなく、言葉の力を深めることにもつながります。



みやもと のぶゆき
宮本 榮信(墨童)

元千早赤阪村立千早小学校校長。「墨童書道会」主宰。大阪府教育委員会指導主事、大阪府内の公立幼・小・中の校園長、大阪府市小・中学校書写教育研究会会長などを歴任。日本文教出版「小学書写」教科書編集委員。

「語彙指導」と書写指導

連載
第二回

今回は、低学年の語彙指導について、「話すこと」「読むこと」の実践を通して考えた。

第二回は、中学年での語彙指導の可能性を、子ども主体の取り組みを中心に提案してみたい。

1 「ひらがな先生」

かつて、「線Line」第七号（二〇一五年六月発行）誌上で「漢字先生」の取り組みを紹介させていただいたことがあるが、そのひらがな版である。

◎ひらがな五十音表

ん	わ	ら	や	ま	は	な	た	さ	か	あ
(い)	り	(い)	み	ひ	に	ち	し	き	い	
(う)	る	ゆ	む	ふ	ぬ	つ	す	く	う	
(え)	れ	(え)	め	へ	ね	て	せ	け	え	
を	ろ	よ	も	ほ	の	と	そ	こ	お	

まず、「ひらがな五十音表」を用意する。子どもたちは、朝の会などに一年生の教室に行き、指示棒で「五十音表」のなかから、一字ずつ指して言葉を作る。言葉ができたなら、「さん、はい」と声を掛けて一年生に一齐にその言葉を声に出させる。それまでは、目だけで読むことを徹底させる。子どもたちは、その言葉を語彙として一年生が認識できるように「なかま」の言葉

調べてメモに書いて用意する。何語か出題した後、一年生に何の「なかま」なのかを答えさせる。上位語を考えさせるわけだが、これらを子どもたちに事前に用意させる。

一年生に出題するので、いい加減なことではできない。事前の準備が大切になる。子どもたちは、言葉集めやどんな「なかま」を出すかといか考える。

これらのプロセスが主体的な語彙学習になる。クラスの協力を得るために言葉集めカードを配り、上位語と「なかま」の言葉を記入して提出してもらう。また、一年生に上位語の答えを教えるときには、フラッシュカードに書いて示す。このようなプロセス全てで書写の力が支えになる。

また、これを「しりとりに」行うことも楽しい。その際、「しりとりに」（安野光雅作／絵『こどものとも』福音館書店二〇一八年六月）を参考にすると良い。高学年なら、絵本の構造を真似て冊子を作ることも可能だろう。

2 漢字クイズ作り

手書きのプリントを使って、グループ協同で漢字クイズを作成する。グループでクラスのみんなに出題し、採点も責任を持つ。クイズの内容は、なかまの漢字（類義語）と反対の漢字（対義語）と創作漢字の三種類だ。既習の漢字が基本だが、それにとらわれない。漢字辞典や国語辞典を駆使して出題し、答えてよい（なかまの出題例 東―南―川―海、朝―夜、目―口―）。反対の漢字には、相補や相対、反対を意識して出題させてもよい。創作漢字は最も面白いがク

イズだ。これらを全て子どもたちが手書きするところに緊張と相手意識が働き、書写の力が生きてくる。

3 クラス専用の作文用漢字辞典の作成

中学年になると「書くこと」が頻繁になってくる。その際、漢字を使うように指導する。教科書の後ろには、既習の漢字が五十音順に整理されていて便利だ。この漢字コーナを使うように指示するが、子どもたちは使用範囲を含めて直接聞きに来る。単に漢字を書けばよいというのではなく、語彙として意識していることがわかる。

そこで、子どもたちが聞きに来る漢字をメモしておいて、ある程度たった一学期の終わりに分野別に整理しておく。四年生のクラスで整理し、一覧表にしたものは、次の通りだ。

① 学校	② 勉強	③ 向き
④ 時間	⑤ 気持ち	⑥ 考え
⑦ 自然	⑧ 体	⑨ 動き
⑩ 道具	⑪ 場所(建物)	⑫ 人間
⑬ 食べ物	⑭ 様子(人間程度)	⑮ 名前(人名)
⑯ 色	⑰ 動物	⑱ 仕事(店)
⑲ 病院(病気)	⑳ スポーツ	
㉑ 方法		
㉒ 物	㉓ その他	

●拙著「たのしくはなす国語 ことばの力」フォーラムA 一九九七年

二期期からは、この二十三項目の分類に従ってノートを作り、まずクラスで確認した漢字を書く。このノートを辞書のように作文を書くときに傍らに置いて活用する。そこへ新たに使った漢字を項目・分野ごとに書き足していくようにする。

作文を書いている過程で考えがまとまらないとき、このノートを分野ごとに見ていると思いが浮かんだり、思い出したりすることがある。多くの言葉が並んでいるので語彙表の役割を果たしているのだ。

例えば、【⑨動き】の項目だと、

「見る・言う・帰る・遊ぶ・行く・作る・出る・歩く・食べる・聞く・会う・合う・開ける・走る・持つ・乗る・死ぬ・落ちる・直す・使う・飲む・登る・上がる等、四十七語」といった具合だ。

三学期には、一年間使った項目ごとの漢字を全員で出し合い、クラスの作文用漢字辞典を完成させる。この共通の辞書と自分の辞書を比べたり、自分の使用した漢字をマーキングしたりすることで、自分の漢字使用の特徴をふり返ることができる。この作文用漢字辞典は次の学年でも大いに活用される。

4 「ひと・もの・こと」説明事典の作成

新井紀子氏の指摘によると、中学一年生の教科書は定義文がものすごく多く、子どもたちの一番苦手なタイプの問題も定義文を読む問題だそうだ（「初等教育資料」二〇一八年四月号 文部科学省）。

そこで、人、物、事柄に関わる対象を説明（定義）する学習を事典作りにつなげる実践を提案したい。

子どもたちは、物事を説明するためのカテゴリに一年生から触れている。学習指導要領の言語活動例にも「仕組み」などが取り上げられている。多くの学校（注1）での実践を通して、三年生になると「十五のカテゴリ」（注2）を理解語彙として獲得していると考えられる。さらに四年生になると、十五のカテゴリを

使って様々な対象を説明することができるようになる。この説明力は全教科、日常生活においても必要なものである。

対象を説明するための15のカテゴリ

① 内容	それは、何ですか
② 成分	それは、何でできていますか
③ 分類	それは、どんななかまに入りますか
④ 形態	それは、どんな形をしていますか
⑤ 構造	それは、どんなふうになっていますか
⑥ 理由	それは、どうしてそうなっているのですか
⑦ 機能	それは、どんなはたらきをしますか
⑧ 目的	それは、どんなことに使いますか
⑨ 方法	それは、どんなふうに使いますか
⑩ 分布	それは、どこにありますか
⑪ 変容	それは、どのように変わりますか
⑫ 問題論	それは、何が問題となりますか
⑬ 歴史	それは、どのようにしてできたのですか
⑭ 反応	それは、どんな感じがしますか
⑮ 関連	それは、どんなふうにかかわりますか

朝の会などを利用して、教師が「お題」を提示し、子どもたちはカテゴリ一覧表を参考に、百字原稿マスに記述する。書き終わるとペアで使用カテゴリの番号を朱書きして確認する。教師は、みんなの説明文を集約して、対象ごとに使用カテゴリのランキングを発表する。対象には、より適切なカテゴリがあることを発見する。

大阪府の四條畷市立岡部小学校では、全校で取り組んで、毎回クラスで四名ずつの作品を掲示して交流してい

る。学力や記述力が顕著に高まったそうだが、同時に丁寧な文字で書く習慣も育成されている。

さて、四年生の取り組みだが、一学期継続していると百字を超えたり、多くのカテゴリを使い始めたりする書き慣れてくるのだ。同時に、文字も少し乱雑になってくる。二百字を超える者も出てくる。ほぼ全員が超えるようになると、今度は逆に百字まで短くするように指導する。記述したカテゴリがその対象を説明するのに、より適切なものかどうかを考え、判断させて朱線で削除させていく。そうやって推敲したものを百字原稿マスに丁寧に書き上げる。

このように、一年間「ひと・もの・こと」について「十五のカテゴリ」を有力な道具として活用して、自分なりに定義してきたものを五十音順に綴じて私家版国語辞典を完成させる。

完成したものを級友と交流して、その違いや個性を楽しんだら、市販されている国語辞典と読み比べて、どのように構成、記述されているかを自分たちとの違いから「批判的」に読み取らせ、その活用の仕方を考えさせる。

今回は、中学年での語彙指導の可能性を、子ども主体の取り組みを中心に考え、提案させていただいた。



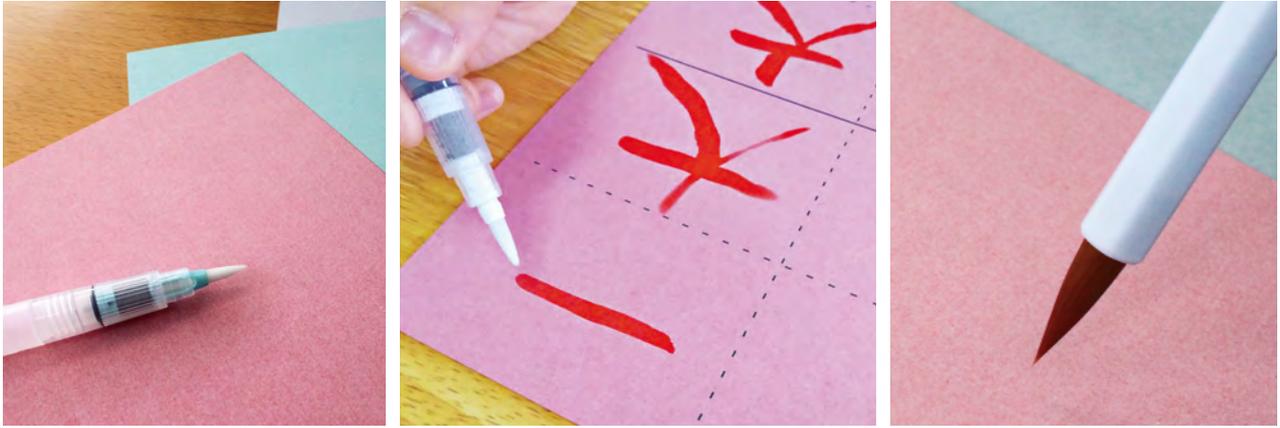
おの ひろゆき
尾崎靖二

甲南女子大学教授・交野市教育委員。教育委員会指導主事、四條畷市・交野市の小学校長、中央教育審議会教科別専門部会委員、学習指導要領解説国語編作成協力者等を歴任。日本文教出版「小学書写」教科書編集委員。

注1 私がかつて校長をさせていただいた四條畷市立岡部小学校、田原小学校、交野市立私市小学校と、記述力調査でお世話になった吹田市立佐竹台小学校、高野台小学校、枚方市立五常小学校、開成小学校で実感した。

注2 従来、速水博氏は十種類、樺島忠夫氏は十一種類、中西一弘氏は十種類、小田迪夫氏は十二種類を上げておられるが、井上一郎氏はいろいろと考察され、最終的に十五項目が最も適切であると結論づけられた。私は、井上一郎氏の十五項目を使わせていただいた。

水書用筆・水書用紙って何？



新しい学習指導要領解説 国語編に、「水書用筆等」という文言が明記されました。水書用筆とは、どんな用具なのでしょうか。

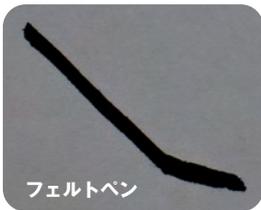
一・水書用筆の種類と特性

水で文字を書くための筆は、主に二種類あります。一つは、穂先に水を含ませて書く筆、もう一つは、軸の部分に水を入れて書く筆です。墨で衣服などを汚す心配がなく、筆の弾力性を気軽に体感できます。



硬筆は、筆圧を変化させる点画の指導が難しいといわれます。硬筆の筆跡では視認しづらいのですが、水書用筆はわかりやすく、児童自身の理解にも、先生が評価する際にも役立ちます。

●筆跡比較の例



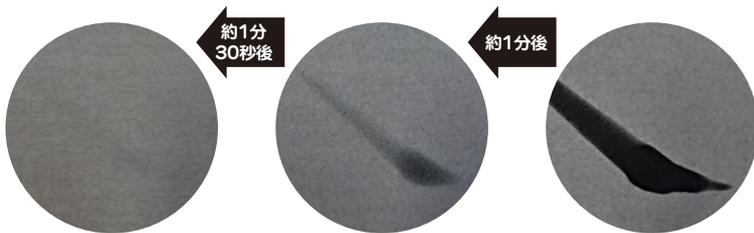
二・水書用紙の特性

水書用筆とあわせて使用する水書用紙は、水に濡れると色が変わり、乾くと元に戻る特性をもちます。水書用筆で書いた部分は、時間が経つことにより筆跡が消えるため、繰り返し練習できます。

三・日常にいきる書写指導

これらの特性をいかして繰り返し練習することは、「硬筆で適切に運筆する習慣の定着につながる」と新しい学習指導要領解説に示されています。

水書用筆は、日常にいかせる書写の能力を育成するための筆記具として、大きな注目と期待を寄せられています。日常にいきる書写指導を、低学年から始めるために、水書用筆を使ってみませんか。



☆「線 Line」No.10には、水書用筆と水書用紙を使用した「指導のミカタ」を掲載しています。バックナンバーをご入用の方は、弊社編集部小学書写係、または、各地区営業担当までお問い合わせください。〔編集部直通 TEL：06-6695-2090〕

「書写指導のミカタ」セミナーレポート

去る二月四日、昨年引き続き、第二回小学書写セミナーを実施しました。多くのご来場、ありがとうございました！



実技指導

実技指導

使ってみたい！指導のてだて2

はじめは、山内有香子先生の実技指導から。教科書の題材を使い、硬筆・毛筆それぞれの授業の流れや指導方法をご紹介します。使ってみました。

手本と試し書きの違いを考えさせる発問や、書き出しや筆順を想起させる点画ピースなど、指導方法には、どんな先生方も取り組め、児童が主体的に学ぶ力をつけられる工夫がありました。また、「水書用筆等」についてもふれるなど、たくさんのポイントをご教示くださいました。

講話

書写学習の課題〜ここが知りたい〜

続いて、宮本榮信先生に、先生方が日々感じている書写への疑問にお答えいただきました。さらに、学習指導要領改訂の注目点についてもご説明くださいました。

筆記具の持ち方や書く姿勢、書写の原理・原則に関する指導のポイントはもちろんのこと、日常生活で児童に接する際の心がけなどについてもお話しいただきました。指導の基礎・基本を振り返ることができる時間となりました。



講話

書写力向上宣言

書写指導のミカタ

字が下手だから、書写の授業は...
筆で書くのはなんだが苦手...
それでもどうにかしたい！という気持ちを抱えている先生方へのご案内です。
誰でも指導できるようなること。子どもたちの書写力向上のためのことを
目指し、姿勢や執筆などの指導法を先生方と一緒に考えます。

2018年
2月4日(日)
13:30~16:00

会場 あへのみんカサ25階会議室
〒200-8585 東京都千代田区千代田1-25-25
お申し込みはこちら
http://www.nihonbunkyo.co.jp/seminar

参加費 500円(税込)
定員 40名(先着)
申込締切 2018年1月26日(金)
主催者 前巻

スケジュール
13:00 受付開始
13:30 はじめに
13:35 実技指導
「使ってみたい！指導のてだて2」
山内 有香子 先生
14:35 休憩
14:45 講話
「書写学習の課題〜ここが知りたい〜」
宮本 榮信 先生
15:45 質疑応答・お礼
16:00 終了

実技指導
山内 有香子 先生
講話
宮本 榮信 (英康) 先生

日本文教出版

この度は、たくさんの方の先生方のご臨席を賜り、誠にありがとうございました！
実践にいかしたい、学校でも広めたい、次回は若い先生を誘って来たいなど、さまざまな反響をいただきました。また、書写指導のあり方を学ぶだけでなく、普段の自らの書字活動を省みる機会になったという感想もいただきました。
今後も引き続き、書写セミナーの企画・実施をしていきます。詳細は、追ってご案内いたします。次回も奮ってご参加ください！



平仮名の形に 気をつけて書こう

神奈川県横浜市立峯小学校教諭
北村しのぶ



書写の学習といわれると、毛筆学習を思い浮かべる方が多いのではないだろうか。しかし、私たちが日常的に使用しているのは硬筆がほとんど。硬筆につながる毛筆学習はもちろん大切ですが、硬筆学習も欠かせません。特に、平仮名を一つ一つ丁寧に学習する一年生のこの時期に、硬筆の基本をきちんと身につけることは、今後の学習だけでなく、生涯の書字活動においても大切です。私もまだまだ硬筆指導については勉強中ですが、少しでも先生方の参考になればと思います。今回は、実践した硬筆学習の授業をご紹介します。

1 一単位時間の学習の流れ

① 本時のめあてを確認する。

「足ペタン、背筋ピン、お腹と背中にグー一つ」の合図で姿勢を整え、号令をかけたら、まずは本時のめあてを確認します。本時は、「平仮名の形に気をつけて書こう」という、外形の学習です。このときは、まだ不思議そうな顔をしている一年生。すぐに試し書きに移ります。

② 試し書きをする。

何も見ないで、用意したワークシートに「いも」「ふね」と書きます。教師が見本を示すと真似をしてしまい、自分が普段書いている文字に対する課題をもちにくくなってしまったため、ワークシートを拡大し、「ここに書きます」と、書く場所を示しました。「どうして『いも』?」「どうして『ふね』?」「そんなつばやきも聞

こえてきますが、ドキドキしたまま次の過程に移ります。

③ それぞれの文字に合った形（おうち）を知ろう。



ここで、外形を示した「おうち」の登場です。児童はすぐに、おうちの中の形が違うことに気がつきます。そこで、文字には、その文字に合った「住みやすいおうち」があることを伝えます。本時では、「こ」という文字を例として扱いました。だいたいの四角、横長の四角、縦長の四角、逆三角形、三角形、「こ」の外形は、どのおうちかを考えます。このとき、教師がすべてのおうちに、ペンで「こ」と書くことで、「横長の四角だとべっちゃんこだよ」「三角形のおうちは、上が短くなっておかしい」と、児童の外形の気づきにつながります。最後は、だいたいの四角か縦長の四角で悩みましたが、教科書の平仮名五十音表を使って、字形を確認し、だいたいの四角の「こ」にたどり着きました。悩んだときは、教科書を見て確認するように伝えました。



④ 他の文字でも考える。

外形に興味がわいてきたところで、「他の文字はどうだろうね」と発問をします。児童は次々と、文字の外形を伝えようとするので、少なくとも一人に一枚は配れるように五十音のカードを用意しました。児童は自分に配られた文字に合った外形を考え、黒板に貼っていきます。迷っている児童には、教科書の平仮名五十音表を見せたり、友達に聞いたりしてもよいと、それぞれに声を掛けたりしました。一枚貼り終わった児童には、二枚目のカードを渡し、クラスで五十音すべての外形を黒板に貼りました。

⑤ 全体で共有する。

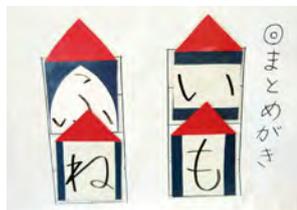
黒板に貼った文字を全体で眺めながら、確認をしていきます。どの形に入るのかわからない文字は、みんなで考えます。このとき、外形について、「これが正解」というように答えを出すのではなく、「こっちはおうちの方がきれに見える」「こっちはおうちでもよさそう」と、外形に注目して、どちらの方がよりに読みやすいか、思考する過程を大切にしました。本時では、児童から出なかった外形があり、拡大して「な」は逆三角形、「ふ」は三角形、「つ」は横長、四つの文字の形。それらについては、教師から示しました。



⑥まともな書きをする。

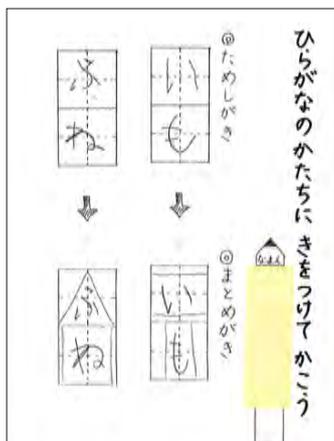
一通り、外形について考えたところで、まともな書きをしますが、その前にもう一度、「い（横長の四角）」「も（縦長の四角）」「ふ（三角形）」「ね（だいたい四角）」の外形を確認します。

ワークシートで、試し書きのときの自分が書いた文字を見て、「ここはこうだったから、こうやって書こう」と、自分の課題をもち、外形を意識しながらまともな書きをしていきます。

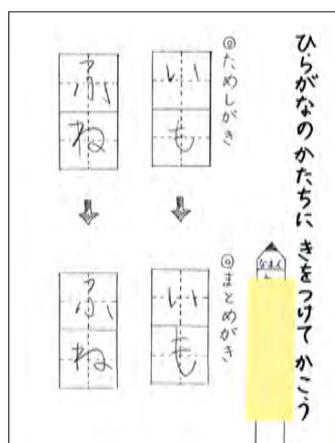


2 成果と課題

普段は外形を気にして文字を書いていなかった児童も、今回の授業を通して外形のことを知り、意識が高まったように思います。ワークシートのまともな書きからは、文字を囲って、どの形に書けばいいのか確かめながら書く児童の姿も見られました。



外形を気にすることで、ますの真ん中に文字を書く児童も増えたように思います。



また、国語の授業で平仮名を学習したときに、お手本の文字を線で囲い、外形を確かめる児童もいました。

今後、普段の授業の中でも「この文字は〇〇の形だね」と、外形を意識する姿や、一まずいっばいに文字を書いていた児童が、外形を意識して、ノートに記録する姿に期待したいと思っています。

今回の実践では、外形を考えることで、外形への意識を高めることをねらいとしましたが、児童によっては、まともな書きのときに自分の文字をなかなか修正できず、試し書きとまともな書きが同じになっている児童もいました。実態にもよりますが、試し書きとまともな書きだけでなく、ワークシートを使って、書く量をもっと確保する必要もあったかと思えます。

また、「この文字はこの外形」と、答えを出すのではなく、どちらの方がより読みやすいか、思考する過程を大切にしましたが、形にこだわる児童もいます。算数のように答えが出るものでもないのに、「どの形にも当てはまらない文字があること」や、「どっちの形にも当てはまる

文字があること」を、事前に話しておく必要があるかもしれません。

今回は多くの文字で考えてもらいたいと思い、五十音すべてを考えましたが、考える文字が多く、一つ一つの文字をじっくり考えることができなかつたようにも感じます。「この文字は、どっちかなあ」「こっちのおうちの方がきれいな見える」と、丁寧にその文字と向き合う時間にするのもよいかと思えます。

3 支援 「おうち」の効果と作り方

外形を「おうち」に例えることで、それぞれの文字には、字形が整って見える形があることを、わかりやすく伝えられます。児童は、自分に任された文字がどの外形（おうち）なのかを確かめるために、おうちに文字を当てたり、近くで確認したりしながら考えていました。

「おうち」はラミネートすることで、ホワイトボードマーカーを使えば何度も書くことができます。外形を捉えられない児童には、その文字を書いてあげるとわかりやすくなります。

4 硬筆学習の大切さ

日常の筆記具は硬筆なのに、学校教育では毛筆による指導が今でも行われています。それは、毛筆を使って書くことで、文字を正しく丁寧に、そして滑らかに書けるからだといわれています。日常の筆

記具が毛筆から硬筆に変わった頃、日本では毛筆を使った教育が減少した時期もあったようですが、現在のようになり再び毛筆による指導がされるようになりました。それは、毛筆による指導を行わなくなつてから、子どもの書字に問題が現れ始めたからだと考えられています。

毛筆学習はもちろん大切で、「硬筆にかす毛筆の授業」の研究も進められています。一方、硬筆は掲示をしたり展示会に出したりするために、「文字を丁寧に書く時間」に留まっていけないでしょうか。硬筆の指導も、毛筆の指導と同じように、自分の文字を振り返りながら、どう書けば相手に伝わりやすい文字になるのか、考えながら行うことが大切だと考えます。硬筆は日常生活で最もよく使っている筆記具だからこそ、きちんと指導していくことが大切です。そして、その指導をじっくりできる時期が、一、二年生だと思っています。特に、一年生の初めの、国語の平仮名の指導と重複させて指導ができるため、関連させて学習が進められます。国語の授業と横断的に硬筆の指導をすることで、平仮名の学習をしたときに、「これは折り返しだね」「このむすびは縦長三角だね」と、書写の時間に指導したことをつぶやく児童の姿を今後も目指して、指導していきたいと思えます。

硬筆入門期の書写指導 ～二年生の指導について～

滋賀県蒲生郡日野町立桜谷小学校講師
長井礼子



二年生になると文字が雑になるなど、整った文字を書けないという実態があります。

一年生のときに比べて書く量が増えたことで崩れてしまった場合や、字形を整えて書く技能が十分に身につかないまま崩れてしまっている場合もあります。実際、二年生を担任してわかったことは、整った文字を書けない理由はそれぞれ異なるということです。しかし、いづれにしても、どの子も整った文字を書きたいと願っています。硬筆文字についてアンケートをとった結果、「大人になったら文字をきれいに書きたい」と全員が答えています。そんな子どもたちに「上手に書けた」という満足感や達成感を味わわせてやるのが、私たち指導者の使命であり、喜びでもあると考えます。

1 楽しく、つなげよう、根気よく

① 筆記具について

硬筆の筆記具はさまざまです。まず、毎日使っているのが、鉛筆です。二年生になるといろいろな鉛筆を持つてくるようになりませんが、できるだけ芯の柔らかいものをすすめています。Bや2Bがほとんどですが、書写の時間には、4Bで書かせています。子どもたちは、最初、太い芯に驚きましたが、「書きやすい」と好評でした。柔らかい芯で書くこと余計な力を入れずに書くことができるので、おすすめです。

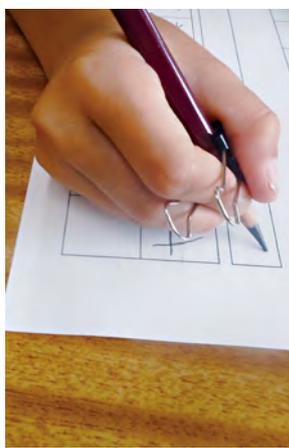
フェルトペンも緊張感をうみ、集中し

て書くこととすることで、点画等の指導に適しています。フェルトペンで書いたあとは、必ず鉛筆に戻るようにしています。

② 鉛筆の持ち方と姿勢について

書写の研究会（硬筆部会）の場で、必ずといっていいほど聞かれるのが、「鉛筆の持ち方が直らない」という指導者の声です。入学前に身に付けた持ち方が癖になっただけで、正しい持ち方を教えても、なかなか身に付かなくて困ったという経験は、低学年を担任した者なら誰しも経験したことのある共通の悩みでないでしょうか。

入学時、補助クリップをはめて書いていた子どもたちも、二年生になるといつのまにか使わなくなっています。子どもたちに理由を聞いてみると、使いにくいと感じていたり、付け替えるのが面倒だったりして、何となく使わなくなったということが多いようです。指導者も、一年生のときほど、声を掛けなくなります。もちろん、使わなくても正しく持てるようになったという子どももいます。



私は二年生の子どもたちにも、補助クリップは、必要なときに使わせています。事務用のもので、はめやすく、使い

やすいです。借りにきます。このクリップは身近なアイテムとして、おすすめです。今まで、輪ゴムや洗濯ばさみなどいろいろ試してきましたが、いづれにしても使いにくいと続きません。指導者が、子どもたちに合ったものを見つけ、根気よく指導していくことが必要だと思います。日頃から、鉛筆の持ち方に意識を向け、時には子どもたちをほめることも忘れず、声かけをしていくことが大切ではないかと思えます。

正しい鉛筆の持ち方を定着させるには、日々の授業の前に持ち方チェックをします。例①②のように、子どもたちがイメージしやすい楽しい言葉を使って定着を図ります。

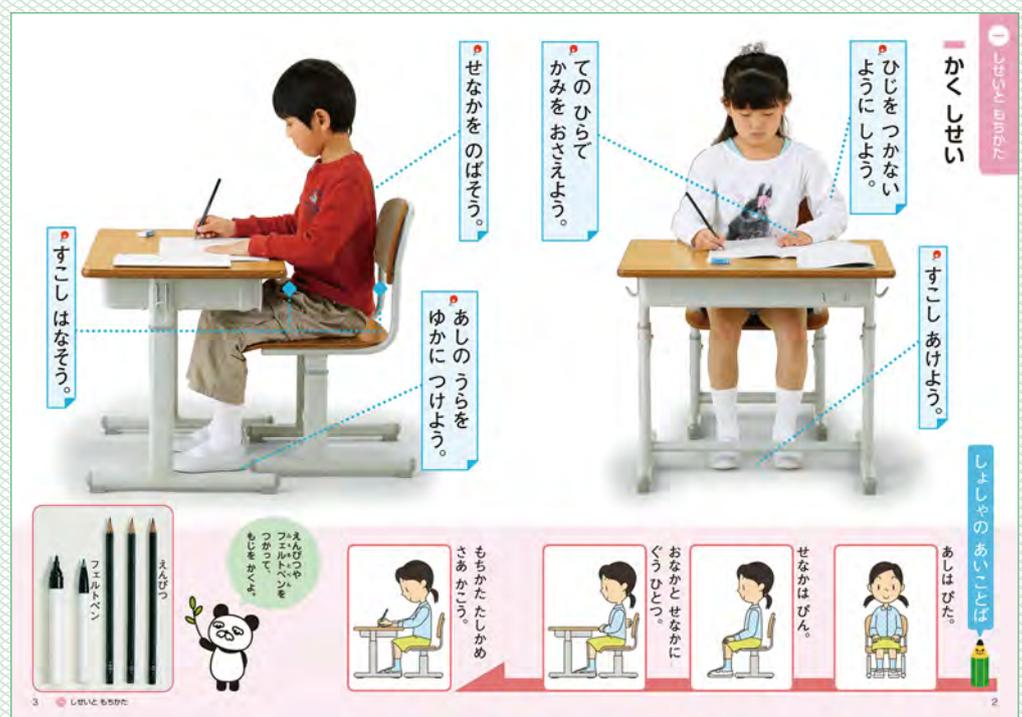
例

- ① クジャクの頭を作って、反対の手で鉛筆を持っていき、野菜スティックをむしゃむしゃ（指先を動かす事を意識しやり方）。
- ② 親指とひとさし指で、OKマークを作る。中指から後三本は、丸めて、この指のなかに、ハムスターに触れるようにふわっと持ちましょう（柔らかく持つことを意識させたり方）。



また、姿勢についても、教科書のイラストを使って、「足びた、背中びん、椅子に深く腰掛けて、背中とおなかにグー」など、号令を掛けていつも学習をスタートするようにしていくことも、習慣づけによってよい方法と考えます。姿勢

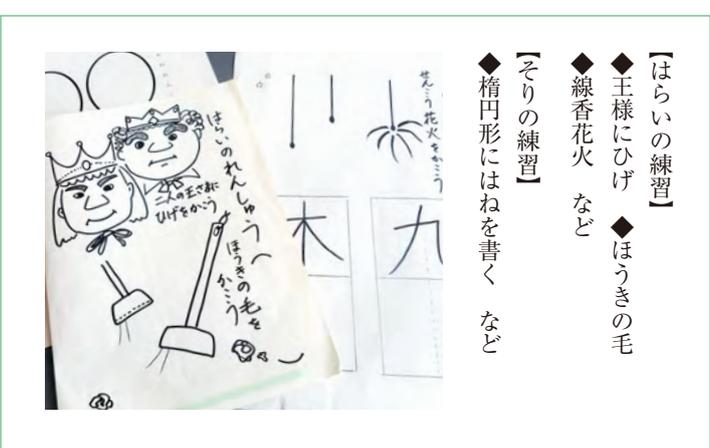
も鉛筆の持ち方同様、合い言葉を言いながら学習を始めることで、教室全体がびしっと引き締まり、学習への心構えもうまれます。授業の途中で、姿勢や持ち方が崩れてきたと感じたら、その都度、合い言葉をつぶやくことで、気持ちも切り



替えることができます。そこで、意外に見落としがちなのが、練習用紙や手本、反対の手の置き方です。練習用紙は書く手の方の胸の前に。手本は書く手と反対の方に。空いた手をしっかり置くこともおろそかにせず、姿勢とともにおさえたい事項です。

2 書写力 きちんと身につける

①正しい字形を正確に書くために
本時のねらいを明確にしたうえで、導入で線遊びを取り入れるようにしています。



書写も技能教科の一つです。体育科のようにウォーミングアップに線遊びを取り入れ、鉛筆を正しく持ち手を滑らせて書くことや本時のねらいを習得しやすくするために、できるだけ子どもたちが喜んで取り組めるものを用意するようにしています。

②点画、間隔、傾きや長さを主体的に学ぶ学習

書写学習も他教科と同様、子ども自らが考え、友達同士で見つけることを大切にした授業づくりを疎かにしてはいけません。ときには、間違った文字を提示して、「どこがおかしいのかな」と投げかけたり、子どもたち自身が問題を解決していける展開を仕組んだりしながら、主体的・対話的な学びの授業をしていくことで、より確かな文字感覚が養われると考えます。

常に、私たち指導者は、子どもたちが楽しく感じ、「次の学習が楽しみだな」「もっと書きたいな」と関心・意欲を示し、「どうしたらいいのかな」と考え、導き出せる授業を仕組み、子どもたちが硬筆書写の基本をしっかりと身につけられるようにしていきたいものです。

最後に

「文字を書く」ことは、一生続きます。書くことを生涯の仕事と捉え、小学校六年間を通して、子どもたちが「整った文字へのあこがれ」を自分のものにしていくことを願っています。

やすみりえの五・七・五紀行

第二回

東京都台東区に行く

上野公園

川柳は、浅草で産声をあげ、上野で文芸として成長しました。訪れたのは、川柳発祥の地として、文化の足跡が残る東京都台東区。今年には初代川柳生誕三百年であり、「十六代目 尾藤川柳」が誕生した記念すべき年です。

まずは、京成上野駅の近くにある「誹風柳多留発祥の地」にて、尾藤先生に川柳発祥の話伺いました。近くの「上野東照宮」では、村田周魚や尾藤三柳の句碑を見ることが出来ます。

また、川柳文化の祖となった柄井川柳が門前名主をしていた「天台宗龍宝寺」を訪問。初代川柳の墓や句碑、川柳会館など、ゆかりの史跡を巡りました。

TOKYO
Taito-ku



(右) 川柳とは文芸名ですが、元になったのは人名。十六代目 川柳を襲名された尾藤先生と一緒に「誹風柳多留発祥の地」へ。
(左上) 選句集「誹風柳多留」が世に出て、十七首独立文芸が確立され、作品のおもしろさが江戸庶民に受け入れられたという。
(左下) 川柳公論の出版をはじめ、学問としての川柳学を樹立した尾藤三柳の句碑。「乱世を酌む友あまたあり酌まむ」という一句。

金

色のあるひるが目を引く碑は、江戸から続く川柳「誹風柳多留発祥の地」を記念したもの。十六代目 川柳を襲名された尾藤先生も、建立に尽力されました。刻まれた句は、「木綿」こと「呉陵野可有」という人の作品です。



「羽のあるいいわけほどはあひるとぶ」は、あひるだって羽があるから飛ぶことができます。川柳だって文芸であるのですから、その作品で世間を唸らせることもできるという意気込みを表しています。

上野界隈は、最初に川柳が栄えた地ということもあり、ゆかりの旧跡や句碑がたくさんある場所。上野東照宮の



蔵 前駅から五分ほど歩いたところに、初代川柳の墓がある「天台宗龍宝寺」があります。初代川柳辞世句碑「木枯や跡で芽を吹け川柳」など、初代川柳にまつわる史跡も現存します。境内には、川柳会館があつて、初代川柳の命日にあたる九月二十三日は、川柳忌が行われています。この日には句会と法要が行われ、私も以前に参加しました。



天台宗龍宝寺

境内には、尾藤先生のお父様である尾藤三柳、川柳を内外に発信した「川柳きやり吟社」の村田周魚などの句碑も。上野公園内にも著名な川柳人の句碑があるので、台東区の川柳散歩の目的地として巡ってほしいですね。



川柳人が世に送り出す句は
長い時間を経て、新たな魅力が生まれます。

やすみりえ

川柳会館は、どこか懐かしさを感じさせる雰囲気の建物。中には初代川柳を描いた掛け軸があり、壁には「初代川柳立机二百五十年記念奉納作品」が額に収められています。特選句として選ばれたもので、一つ一つの句を拝読すると、現代の時流に合った句が見られますが、何年後、何十年後になれば、また違った印象を受けるかもしれませんね。これも川柳のおもしろさの一つだと思います。

上野公園

DATA



台東区は川柳行事や川柳会が、さまざまなところで行われます。天台宗龍宝寺門前の区道は、二〇〇九年に「川柳横丁」という道路愛称を登録。近くには、柳多留最中の和菓子店があり、町は川柳一色です。川柳発祥の地を一度訪れてみると、川柳の新しい魅力を再発見できると思います。

●住 所 東京都台東区上野公園
●アクセス JR各線・東京メトロ各線 上野駅下車、京成本線京成上野駅下車 徒歩すぐ

※「誹風柳多留発祥の地」は京成上野駅改札を出てすぐ

天台宗龍宝寺

●住 所 東京都台東区蔵前4-36-17
●アクセス 東京メトロ各線蔵前駅下車 徒歩5分



やすみりえ

川柳作家。神戸市出身。恋を詠んだ作品が幅広い世代から支持されている。多数の公募川柳の選者・監修を務める一方で、子どもたちへの川柳教室やワークショップを開催。文化庁文化審議会委員。(一社)全日本川柳協会会員。

岡山県久米南町にある川柳公園に句碑を建立しました！

第一回の五・七・五紀行にてご紹介した「川柳公園」に、私も句碑を建立させていただきました。「まなうらのいつでも逢える天の川」という句は、昨年に亡くなった母を想い、作句しました。昨年の秋ごろに句碑建立の話をいただき、母を見送った年でもあったので、この句を刻むことにしました。





1原料を溶かしたすき槽から、簀桁という道具を使って紙料を汲みあげすく、溜めすき。紙すき体験 400円（入館料別途）。2簀桁を横に振りながら紙料が均等になるようすくい、水分が落ちるのを待つ。3この簀桁はハガキ6枚、名刺5枚用。4ぎゅっと圧縮をかけたら和紙が簀桁からはがれる。特殊な機械で乾燥させること30分。完成品は持ち帰りOK。



土佐和紙

（高知県の町）

世界一薄い手すき和紙を生む

卓越した技術力の源とは

目指せ！
文房四宝博士

2



高知県の町

越前和紙、美濃和紙と並ぶ三大和紙の一つである土佐和紙。その土佐和紙発祥の地として知られているのが、いの町です。今回は「いの町紙の博物館」を訪れ、展示や紙すき体験を楽しみながら和紙の魅力に迫ります。

『仁淀（によど）ブルー』と呼ばれる透明度の高い水質から『奇跡の清流』と称され、全国から熱視線を集めている仁淀川。その美しい水が流れるいの町には、良質で豊かな石灰や製紙原料に恵まれたことから、平安時代より紙の町として栄えてきました。高知県の手すき和紙である土佐和紙は、国の伝統的工芸品にも指定されています。その土佐和紙の歴史と用具や製作工程を見学、紙すき体験などができる「いの町紙の博物館」を訪れてきました。

やさしく温かみのある風合いと優れた性質の土佐和紙は、約三百種類という豊富さが特徴です。障子やふすま紙などの建具をはじめ、版画、水墨画、日本画などの絵画用紙、美術品や書物の修復紙に至るまで、幅広い用途に使用されています。特に、土佐和紙を代表し、国の重要無形文化財に指定されているのが世界一



5ベテランの職人による流しすきの実演。きめの細かい薄い紙や半紙に適した技法。毎月第1日曜日は体験も実施（有料）。6溜めすきの完成品。7「カゲロウの羽」とも呼ばれる世界一薄い手すき紙である土佐典具帖紙は、薄さと透明感、強さを兼ね備えた世界に誇る和紙。8職人が流しすきした商品を購入することもできる。



11 博物館の玄関にある、吉井源太のマスコット。

薄い手すき和紙「土佐典具帖紙（とさてんぐじょうし）」。厚さは〇.〇三mmにも関わらず、均等で破れにくいことが特徴で、主に文化財の修復や美術工芸品に使用され、イタリアをはじめ世界中からオフアアが絶えません。

高知と紙の歴史は古く、さかのぼると平安時代。『土佐日記』で有名な歌人紀貫之が、土佐の国司として製紙業を推奨したといわれています。さらに、江戸時代には土佐七色和紙（とさなないろがみ）を創製し、幕府へ献上したことから、土佐和紙の名が広まりました。また、土佐和紙の功労者として知られるのが、明治時代の吉井源太。典具帖紙やコッピーパーなど二十八種類もの紙を考案したり、製紙用具を改良し、生産性を数倍向上させたたりと、国内外の博覧会で優秀な賞を受賞し輸出にも貢献するなど、その業績は世界レベルで認められ、今でも土佐和紙のシンボルとして多くの人に愛されています。

和紙の原料となるのは、コウゾ、ミツマタ、ガンピなど。それを栽培、収穫、そして煮て繊維質を取り出し、水洗い、漂白、ちりを取り除き、繊維を溶かして紙料を作ります。この紙料が紙質を決めるポイントになり、紙料を使って紙すきをし、和紙を形成します。

「二人前の紙すき職人になるには十年もかかると言われますが、紙すき体験なら職人の手ほどきを受けながら簡単にできますよ」と話すのは紙の博物館技術員の北岡さん。紙すき体験には溜めすきと

流しすきがあり、流しすきは月一回限定の体験であることと、高度なテクニクが必要。「社会見学で訪れる小学校三年生から五年生に、紙すき体験は大好評です。溜めすきは原料を溶かしたすき槽（ぶね）から簀桁（すけた）という道具で紙料を汲みあげ、バランスよく揺り動かしながら、和紙をすくというもの。単純作業ながら力の加減で風合いが異なるので、人それぞれ趣きの異なるものができあがります。所要時間は四十分ほどで、小学生が目キラキラさせながら体験していますよ」。しつかり乾燥させたら、はがき八枚もしくは色紙二枚ができあがります。自分ですいた世界に一つだけの和紙への愛情もひとしおで、何に使うかを考えるのも貴重な時間になります。「子どもたちにとって、もっとも身近な和紙といえば、書写の授業で使う半紙をはじめ、工作やちぎり絵で使う色とりどりの和紙ですね。用途によって原料や工程が変わることや同じ和紙といっても風合いが異なることを見て触って、体験して知ること、思い入れもひとしおです」。

古くは衣食住で暮らしのシーンを彩っていた和紙。現在、身のまわりを見渡せば洋紙があふれているものの、最近では若手クリエイターによるおしゃれな和紙製品も増えていて、和紙が懐かしくも新しいものとして身近に寄り添っています。人の手で長い工程を経て一枚一枚仕上げられていく手すき和紙は、日本が世界に誇る伝統的工芸品であり、後世にも伝えていきたい日本の文化の一つです。

DATA

いの町紙の博物館



- 住所：高知県吾川郡いの町幸町 110-1
- 電話：088-893-0886
- 入館料：500円、小・中・高生 100円
- 開館時間：9:00～17:00
(紙すき体験は 16:00 まで)
- 休館日：月曜（祝日の場合は翌日休み）



12 紙すきに必要の用具や製作の様子を展示する。13 ミュージアムショップでは半紙の販売も。14 半紙用の切本（断裁用の板）。



コンドウアキ
 キャラクターデザイナー・イラストレーター・作家。「リラックマ生活」シリーズのほか、「うさぎのモフィ」、「みかんぼうや」シリーズなど著作多数。文具メーカー勤務を経てフリーとして活躍する傍ら、一児の母として育児に奮闘中。

連載
 第十一回
 コンドウアキの
**書写的
 生活**

日常生活では、さまざまな場面で連絡をすることがあります。しかし、正しく伝えることができれば、トラブルにつながりかねません。自分の気持ちや考え、用件を誰かに正しく伝えたいとき、あなたなら、どんな方法を選びますか。

Produce:STORE Art Direction & Design:ad detective QUEST

line 線

2018 No.11

日文教育資料[小学校書写]
 平成30年(2018年)8月31日発行
 編集・発行人 佐々木秀樹
 発行所 日本文教出版株式会社
 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
 TEL: 06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

題字・新谷泰鵬

CD33415

日本文教出版 株式会社
<http://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
 TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171
 東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
 TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618
 九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
 TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938
 東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-13-18-7F・B
 TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261
 北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1
 TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690